

平成27年第2回帯広市公営企業経営審議会 議事録要旨

日 時 : 平成27年9月16日(水) 午前10時

場 所 : 帯広市役所10階第5A会議室

議題(1) 平成26年度決算状況について

- | | |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員
事務局 | <p>冬季期間と春季期間での下水道マンホール蓋の高低差について</p> <p>冬季期間、路盤に含まれた水分が凍結することにより、マンホール周辺の地盤が上下することがあります。マンホール周りの路盤の改良や土嚢などで段差を解消し、今後も道路管理者と連携し取り組みを進めていきます。</p> |
| 委員
事務局 | <p>8月11日に起きた記録的豪雨でのマンホール蓋浮上について</p> <p>汚水と雨水を一緒に処理する合流区域は、豪雨時にマンホール蓋が外れてしまわないように、計画的に鍵付の蓋に交換しています。8月11日の豪雨により蓋が外れた箇所は、すでに鍵付の蓋に交換しました。今後も鍵付きの蓋へ交換を行っていきます。</p> |
| 委員
事務局 | <p>8月11日に起きた記録的豪雨のその後の対応と計画について。</p> <p>今回の豪雨は、統計的に100年に一度に相当するような豪雨であることが確認されています。通常の管渠の能力の、約1.5倍を超える豪雨が短時間で降ったため、道路の一部が冠水しました。それを踏まえ、国土交通省のゲリラ豪雨対策の補助メニューにある、「浸水シミュレーション」を来年度に向けて要望していきます。「浸水シミュレーション」で得た結果を基に、雨水整備の優先順位を定めることや、異なる排水区間をバイパス管で繋ぐなど、豪雨対策を検討していく予定です。</p> |
| 委員
事務局 | <p>「浸水シミュレーション」と市長部局との連携について。</p> <p>浸水シミュレーションの結果は、防災担当部局と共有する形をとり、例えば避難勧告や不測の事態が生じた時等にも活用が可能ではないかと考えています。</p> |

委員
事務局

吐口方式と浸透方式の違いと浸透方式に見直した理由について。

吐口方式とは、築堤の内側の市街地に降った雨水を川へ流すために、河川までつながる管路を設ける内水排除の方法です。浸透方式とは、雨水を地下に浸透させる方式です。現在、札内川には、雨水の未整備地区が4箇所ありますが、今後、吐口を整備するには相当の時間がかかることから、早期に雨水整備を進めていくために、浸透方式と内水排除を併せて行う雨水処理を実施するのが、最も期間的に早く、合理的と考え、事業認可の変更を行い、国の採択を得たものです。

委員
事務局

中心市街地の悪臭について。

中心市街地は合流式下水道という雨水と汚水と一緒に流す仕組みであり、地下階があるビルは、地下階に設置されている排水槽（ビルピット）の清掃を怠っていたり、汚水の流れる頻度が低い場合、悪臭が発生しやすい状況となります。

今年度は、悪臭が発生していたビルのオーナーや管理会社に定期的に清掃を行うよう協力を求めており、来年度についても、商店街の総会などで悪臭の仕組みを説明する場を設けて、協力を得ていきたいと考えています。

委員
事務局

下水道の空洞化調査の今後の計画について。

昭和47年以前に下水道を整備した路線は、取付管にコンクリート管を使用しており、老朽化によって亀裂や穴が空くことで下水が漏れ出し、周囲の土砂を取り込んで流出する、空洞化の恐れがあります。そのため、順次調査を行い、問題があるところは、補修改善を行う考えでいます。改善した地区についても、今後5年ごとに空洞化調査を実施し、対応する考えです。

委員
事務局

南町配水場の改築事業における今後の追加費用について。

南町配水場の改築事業は平成25年度に3か年の継続工事で土木・建築工事および機械設備工事、電気設備工事で発注しています。平成25年度・26年度に一部設計変更がありましたが、平成27年度は予算どおり執行しています。

委員
事務局

災害対策事業の折りたたみコンテナの保管と使用について。
稲田の浄水場にて保管しています。大人2名程度で持ち運びが可能なコンテナで、災害時で水を配るときに使用を予定しており、容量は1,000リットルです。

委員
事務局

折りたたみコンテナの運搬方法と今後の給水車の増車について。
災害の規模によっては、水道課で保有しているトラックでも運搬可能ですが、災害規模が大きくなれば帯広管工事業協同組合に協力を依頼して、運搬等を考えています。給水車は、現在2台配備しており、現状を維持していく考えです。

委員
事務局

7月1日に発生したメーターコードの切断事件の現状について。また、切断された時の水量表示について。
合計で25件の被害が出て、現在、警察で捜査中です。
使用水量は、水道管についているメーター本体で、全て記憶されているため、受信板にコードをつなげば、全て正しい数値が表示されるようになっています。

委員
事務局

今後の人口減に伴う処理水量の減少に向けた帯広市の取り組みについて。
現在、地方創生として、各自治体で総合戦略を作っています。帯広市上下水道部においても、持続可能な経営をしていくために、中長期的なビジョンであるインフラ基本計画、いわゆるアセットマネジメントを3年計画で作成する予定で、昨年着手しました。

委員
事務局

今後の職員定数について。
平成20～23年度までに上下水道部で15名削減してきた経過があり、維持管理費用のコスト削減は当然ですが、技術のノウハウの継承や人材育成もあり、当面は現行の人数を維持していきたいと考えています。

委員
事務局

特別損失の中身について。
退職給付引当金繰入額・賞与引当金繰入額・不納欠損処理に関する貸倒損失で、制度改正により、平成26年度の4月から退職給付引当金を計上する義務が生じました。この経過措置として、分割計上が認められており、帯広市では4年間に分割して計上しています。